

むかわ町立
穂別博物館館報

第26号

平成20（2008）年度版

むかわ町立穂別博物館

目 次

沿革	----- (p. 1)
施設の概要	----- (p. 4)
施設平面図	----- (p. 4)
展示活動	----- (p. 5)
広報活動	----- (p. 6)
普及教育活動	----- (p. 7)
収蔵資料概要	----- (p. 11)
資料収集保存活動	----- (p. 11)
調査研究活動ほか	----- (p. 14)
運営	----- (p. 15)

沿革

当館は、国の公立社会教育施設整備事業及び北海道市町村振興事業の補助を受け建設された。

穂別町立博物館は昭和50(1975)年の長頸竜「ホベツアラキリュウ」標本の発見が契機となり建設された。当初は「穂別町郷土資料館」として計画され、建設計画中に「穂別町立博物館」として名称変更された。名称変更後の館活動は「本町で発見される化石(自然史)」の研究・保存・普及と「町の歴史(人文)」の保存・普及を行う二面性を備えた総合博物館としてのものであった。

その後、約10年にわたる博物館活動の結果蓄積された自然史資料の重要性と、人文系資料の保存活動に要する作業量にアンバランスを生じ、活動方針の変更が行われた。その基本活動方針は、「穂別地域で産出する古生物(化石)を材料とし『地球と生命の歴史を考える』総合博物館とする」である。その後現在にいたるが、ここではその経緯を記録し、今後の活動の充実と強化につとめていきたい。

I 「建設の目的」と「展示更新」、「名称変更」

〈穂別町郷土資料館建設の目的〉

『本町は、クビナガリュウをはじめデスモスチルス、海ガメなど多くの動植物の化石が発見されることから、道内でも特異な地質条件にあることが予想される。こうした自然環境を背景に、先人は寒冷地での生活に耐え抜いて開拓の苦闘に打ち勝って穂別の歴史を展開してきた。穂別町開町70年(町制施行20年)を記念して、本町の地質系統と生物の進化、開拓の足跡を示す歴史資料を収集・保存・展示して、先人がいかに自然との調和を図りながら開拓を進めてきたかを理解し、そして未来を創造するために穂別町郷土資料館を建設するものである。』

<昭和55(1980)年11月26日>

〈展示更新の基本的考え方〉

『穂別地域で発見される脊椎動物を始めとするさまざまな化石群が、学術的に貴重なものであることは主張するまでもない。さらに、化石を古生物としてみた場合、学術的な意味を離れても、一般の観覧者にさまざまな示唆を与えてくれるものなのである。

旧来の博物館と異なり、化石をいわゆる「変・古・珍」として扱わず、「我々人間につながる生き物」として見ることを展示の基本に置く。実物は「穂別地域産」にこだわり、模型は「生きていたときの姿」にこだわる。そして、現在の種々の生き物達の関係と同じく、過去の「古」生物達にも同様の生態系としての関連があったこと、さらに、それらは数十億年も昔から現在にかけて綿々と続く「生命の歴史」の1頁1頁であることを理解させる博物館とする。』

<平成2(1990)年6月27日>

〈市町村合併による名称変更〉

平成18(2006)年3月27日に穂別町と鶴川町の合併によって「むかわ町」が誕生し、町立博物館である当館の名称は、新町の名称に合わせて変更する必要性が生じた。しかしながら、これまでの実績との継続性、また、登録資料番号(HM- : HOBETSU MUSEUMの略)の維持のため、新名称には「穂別」の文字を残すこととし、新たな名称を「むかわ町立穂別博物館」(英語表記: HOBETSU MUSEUM)とした。

Ⅱ 沿革

*本年表において「長頸竜」・「首長竜」・「クビナガリュウ」・「ホベツアラキリュウ」の使い分けは、以下の通り。

- ・長頸竜：動物分類上のsuborder PLESIOSAURIAの和訳として用いている。「蛇頸竜亜目」または「長頸竜亜目」が正式名称。
 - ・首長竜：「発掘調査団」の固有名称として使用。
 - ・クビナガリュウ：長頸竜の通称として使用。
 - ・ホベツアラキリュウ：「穂別町首長竜化石発掘調査団」によって発掘された長頸竜標本の名称。
- *名称等は、当時のまま表記してある。

昭和50(1975)年

6月：荒木新太郎氏（穂別町在住）が穂別町字長和において、脊椎動物化石の入った母岩を発見、一部を採集した。

昭和51(1976)年

9月：佐藤昌人指導員（苫小牧青少年センター）・佐藤隆久教諭（穂別町立仁和小学校）が荒木氏発見の化石を長谷川善和主任研究員（国立科学博物館）に鑑定を依頼した。

昭和52(1977)年

2月：長谷川主任研究員の鑑定結果が新聞で報道された。白亜紀海棲爬虫類の鱗の一部と確認した。
7月5-8日：「穂別町首長竜化石発掘調査団」結成、発掘調査。後に、この長頸竜標本を「ホベツアラキリュウ」と命名。

昭和53(1978)年

5月：「ホベツアラキリュウ」標本のクリーニング（割出）作業開始
11月：穂別町立郷土資料館 開館（旧・穂別町立さくら保育所施設利用）

昭和54(1979)年

5月：長頸竜化石骨が穂別町指定文化財第2号に指定される。

昭和55(1980)年

10月16日：「穂別町郷土資料館建設計画検討委員会」発足

昭和56(1981)年

3月13日：施設の名称を穂別町郷土資料館から穂別町立博物館に変更

昭和56(1981)年

7月-12月：博物館建設工事
9月1日：鈴木茂学芸員就任（-昭和60年3月31日）

昭和57(1982)年

1月16日：長頸竜復元作業開始
3月-6月：博物館展示工事
7月20日：博物館開館。一般公開開始（初代館長：今幸太郎教育長兼任）
8月26日：「博物館協議会」発足
11月1日：北海道博物館協会加入
12月19日：長頸竜（ホベツアラキリュウ）復元骨格展示公開

12月19日-1月23日：特別展(第1回)「よみがえるクビナガリュウ」

昭和58(1983)年

3月2日：博物館法による登録博物館となる（北博登第28号）
3月28日：「博物館協力会」設立
4月1日：日本博物館協会加入
4月28日：菅原康次（第二代）館長就任
7月22日-8月7日：収蔵資料展(第1回)「地図展」
8月1日：全国科学博物館協議会加入
11月1日-3日：収蔵資料展(第2回)「こけし展」

昭和59(1984)年

2月：村上隆著「よみがえるクビナガリュウ」発刊
3月27日：「穂別町立博物館研究報告」刊行開始
6月14日：第二展示室（町立博物館保存庫）完成
11月1日-4日：収蔵資料展(第3回)「古い写真・古い文書展」
12月1日：桜庭勝美（第三代）館長就任

昭和60(1985)年

3月30日：「穂別町立博物館館報」刊行開始
5月1日：地徳力学芸員就任（-平成11年3月31日）
11月1日-10日：特別展(第2回)「北海道一億年」

昭和61(1986)年

10月21日-11月9日：特別展(第3回)「穂別の自然」

昭和62(1987)年

1月1日：今幸太郎（第四代）館長就任（教育長兼任）
7月28日-8月9日：特別展(第4回)「アンモナイトの系図」

昭和63(1988)年

7月17日：第三展示室（保存庫）完成
8月23日-9月4日：特別展(第5回)「穂別のカメラ化石」
10月6日：今幸太郎（第五代）館長就任（専任）

平成元(1989)年

6月30日：仲谷英夫氏（香川大学助教授）：長頸竜ホベツアラキリュウ標本の記載論文公表
7月18日-8月20日：特別展(第6回)「穂別のむかし=写真で見る穂別の歴史=」
9月29日-10月6日：学芸員をカナダ・アルバータ州ティール古生物学博物館に派遣した。

平成2(1990)年

7月23日：ドラムヘラー市長夫妻（カナダ、アルバータ州）来館
8月18日-9月16日：特別展(第7回)「戦争と穂別」
9月3日-5日：レイド、M.G.氏（アルバータ州ティール古生物学博物館）来館
12月31日：野田藤雄（第六代）館長就任（教育長兼任）

平成3(1991)年

4月1日：佐藤稔（第七代）館長就任
4月28日、29日：入館者10万人突破記念事業

- 平成4(1992)年
 2月1日：展示更新工事開始
 4月23日-25日：カリー、P. J. 氏（アルバータ州
 ティーレル古生物学博物館）来館
 4月29日：展示更新完了、一般公開再開
- 平成6(1994)年
 4月1日：野田藤雄（第八代）館長就任（教育長兼
 任）
 4月1日：川上源太郎学芸員就任（-平成10年3月31
 日）
- 平成7(1995)年
 7月15日-9月12日：川上学芸員、カナダ・アルバー
 タ州ティーレル古生物学博物館に派遣、研修。
 8月12日：かせき学習館完成
- 平成8(1996)年
 7月27日-28日：96北海道化石サミット開催（穂別
 町民センター）
 10月6日：大江美津夫（第九代）館長就任
- 平成9(1997)年
 7月6日、7月10日-8月31日：クビナガリュウ発掘20
 周年記念事業パネル展（第8回特別展）
- 平成10(1998)年
 4月1日：櫻井和彦学芸員就任（-現在）
 6月11日：星功（第十代）館長就任
 8月11日-8月31日：特別展（第9回）「地球物語り（地
 質学普及書の近代史）」
- 平成11(1999)年
 1月1日：山田正（第十一代）館長就任
 5月29日：入館者30万人突破記念事業
 8月1日-8月31日：特別展（第10回）「滄龍の泳いだ
 海-7000万年前の穂別-」
 10月5日-11月28日：特別展（第11回）「穂別の自然」
- 平成12(2000)年
 8月1日-8月31日、9月14日-10月1日：特別展（第12
 回）「穂別の石-川原の石から見た穂別」
 9月14日-10月1日：日胆地区博物館等連絡協議会主
 催移動展「日高・胆振の博物館紹介」
- 平成13(2001)年
 8月1日-8月25日：特別展（第13回）「穂別町立博物
 館の20年-クビナガリュウとともに-」
- 平成14(2002)年
 4月28日-5月17日：特別展（第14回）「ツノのある奇
 妙なカメ-海の穂別からリクガメ化石の発見-」
 7月1日-21日：特別展（第15回）「穂別町立博物館の
 20年-クビナガリュウとともに-」（再公開）
 7月20日：開館20周年記念講演・討論会「化石の里
 （まち）の博物館」
 7月27日-8月9日：博物館協力会企画展「穂別の化
 石」
 8月31日-9月27日：特別展（第16回）「穂別のカメ化
 石-恐竜時代のウミガメとリクガメ」
- 平成15(2003)年
 1月1日：清川博之（第十二代）館長就任
- 7月20日-8月31日：特別展（第17回）「穂別を泳いだ
 モササウルス」
 11月1日-1月31日：特別展（第18回）「虫とくらし」
 （協力：北海道開拓記念館）
- 平成16(2004)年
 7月17日-8月31日：特別展（第19回）「クジラとデス
 モスチルス-穂別を泳いだ哺乳類-」
 10月30日-12月12日：特別展（第20回）「火山と地震
 -佐々保雄北海道大学名誉教授一括資料展」
- 平成17(2005)年
 7月16日-8月31日：特別展（第21回）「ホベツアラキ
 リュウ発見30年」
 10月29日-12月18日：特別展（第22回）「絵はがきは
 語る -旅の思い出・昔のまちなみ-」
- 平成18(2006)年
 3月27日：「むかわ町」誕生（穂別町・鶴川町の合
 併による）、当館の名称を「むかわ町立穂別博物
 館」と改称
 3月27日：本多廣行（第十三代）館長就任
 7月15日-9月3日：特別展（第23回）「貝が語る むか
 わの一億年」
 10月28日-12月17日：特別展（第24回）「むかわの自
 然-山と干潟の生き物たち-」
- 平成19(2007)年
 4月1日：柏恵一（第十四代）館長就任
 7月21日-9月2日：特別展（第25回）「むかわの一億
 年-化石や石が語る五つの海」
 11月3日-12月2日：特別展（第26回）「鉱業のまち、
 ほべつ-穂別の炭鉱と鉱山の歴史-」
- 平成20(2008)年
 7月19日-8月31日：特別展（第27回）「海へ帰った動
 物たち-穂別のセキツイ動物の秘密-」
 11月1日-12月7日：特別展（第28回）「穂別D遺跡-
 一万年前の人々のくらし-」

施設の概要

【位置】

北海道勇払郡むかわ町穂別80番地6

【町立博物館】

【構造規模】

建築構造：鉄筋コンクリート平屋建

建築面積：1,100m²

常設展示室	372.88m ²
特別展示室	99.08m ²
収蔵庫	86.56m ²
事務室	40.50m ²
研究室	31.50m ²
整理室	29.92m ²
学習展示室	184.75m ²
書庫	35.05m ²
共用部門	219.76m ²

【工期】

昭和56年度～57年度

【総事業費】

362,165,000円

【展示更新】

平成3年度～平成4年度：博物館展示替え工事

平成5年度：マルチスライド、イメージソフト制作

【更新事業費】

平成3年度～4年度：99,910,000円（消費税込み）

平成5年度：6,890,700円（消費税込み）

【かせき学習館】

【構造規模】

建築構造：鉄筋コンクリート平屋建

建築面積：325.89m²

事務室	56.70m ²
作業室	56.70m ²
書庫	14.04m ²
レプリカ室	12.15m ²
処理室	12.15m ²
展示物保管庫	162.00m ²
共用部門	12.15m ²

【工期】

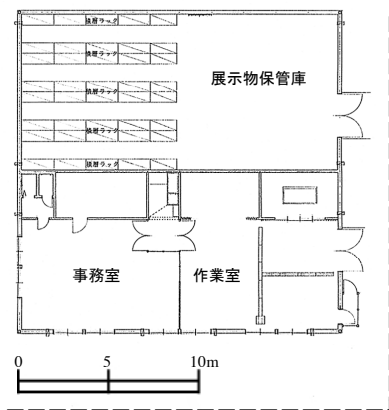
平成7年度

【総事業費】

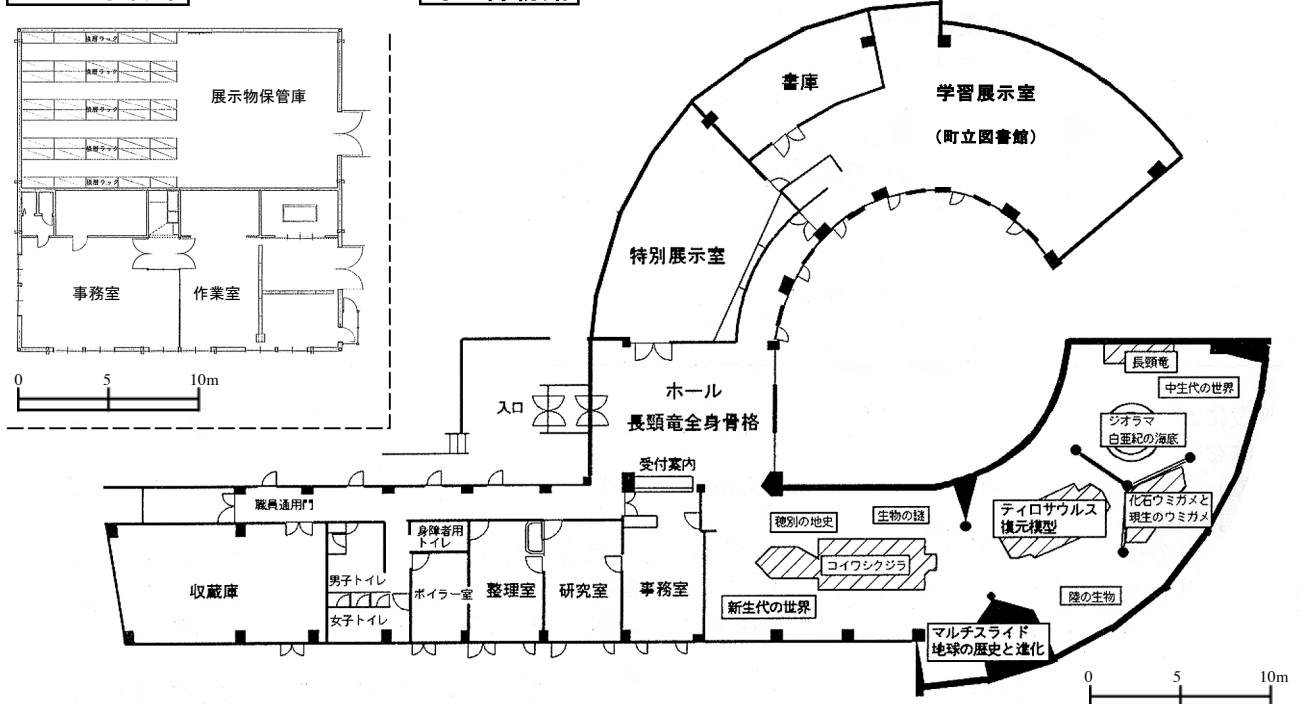
57,092,900円（消費税込み）

施設平面図

かせき学習館



町立博物館



展示活動

I 常設展示

主にむかわ町穂別地区から産出した動物化石を中心に、地質・化石資料やその復元模型を展示している。

【常設展示の変更】

- 平成20(2008)年4月4日 アンモナイト (HMG-1443、*Calycoceras*) を追加した (1点)。
 平成20(2008)年4月9日 ホベツアラキリュウ復元模型を入口ホールに展示した (1点)。
 平成20(2008)年4月11日 アノマロケリス復元画を模式標本 (HMG-1056) の近くに展示した (1点)。
 平成20(2008)年9月10日 デスモスチルス復元模型 (1/5) を追加した (1点)。
 現生ヒグマ骨格 (HMB-46) を追加した (1点)。
 新生代貝化石 (石狩層群、幌内層、紅葉山層、滝ノ上層) を追加した (24点)。
 平成20(2008)年9月11日 アンモナイト (2007-011) を博物館前庭に展示した (1点)。
 平成21(2009)年3月31日 長頸竜化石、アンモナイト、白亜紀魚類化石等を追加した。

【常設展示資料】

種別	分類		点数	計
化石	脊椎動物	魚類	13	296
		爬虫類 (長頸竜14*・モササウルス8*・カメ6・他2)	30	
		哺乳類 (クジラ7・デスモスチルス2*・他10*)	19	
	その他動物	軟体動物 (頭足類102・腹足類31・斧足類54・他3)	190	
		その他 (甲殻類10・その他9)	19	
	植物	23		
	生痕	2		
現生生物	脊椎動物	爬虫類 (カメ)	3	20
		哺乳類 (クジラ5・鯨類1・その他2*)	8	
	その他動物	軟体動物 (頭足類) 3・甲殻類1・その他4	8	
	植物	1		
復元模型	脊椎動物	爬虫類4 (長頸竜2・モササウルス1・カメ1)・哺乳類1	5	5
その他	岩石標本等		28	28
合計				349

*: レプリカ含む (2009年3月31日現在)

II 特別展示

【夏季特別展】「海へ帰った動物たち =穂別のセキツイ動物の秘密=」: 7月19日-8月31日

穂別地区で特徴的な、海の爬虫類化石・海の哺乳類化石を解説することを通じて、当時の穂別地区の生物や環境について紹介し、生物の進化についての理解を深めてもらう。

展示協力: 足寄動物化石博物館 (展示資料の借用)

見学者3,647人 (内、穂別地区30人)

【秋季特別展】「穂別D遺跡 =一万年前の人々の暮らし=」: 11月1日-12月7日

穂別D遺跡の発掘で見つかった、縄文時代 (7,000-3,600年前) の土器・石器128点、擦文文化期 (11世紀) の土器など7点、アイヌ文化期 (17世紀) の金属製品など26点、その他町内の土器・石器など、計232点を紹介。

展示協力: 北海道埋蔵文化センター

見学者695人 (内、穂別地区31人)

※見学者数は、期間中の入館者数と会場に設置した見学者名簿に記入された穂別地区住民数の合計

Ⅲ 年間入館者数

(単位：人)

分類		平成16年度 (2004)	平成17年度 (2005)	平成18年度 (2006)	平成19年度 (2007)	平成20年度 (2008)
個人	一般	7,954	6,843	6,191	6,661	6,280
	学生	3,567	2,963	2,746	3,106	2,866
団体	一般	775	691	520	322	289
	学生	988	715	931	764	534
計		13,284	11,212	10,388	10,853	9,969

個人：割引入館者（穂別地球体験館との共通利用割引）と無料入館者（特定入館日、減免等）を含む。

団体：10名以上

一般：高校生より上 学生：小学生～高校生

幼児（小学生未満、無料）の人数はこの表には含まれていない

広報活動

【ホッピーだより（博物館広報紙）】

- 281号<平成20(2008)年4月>:「穂別のいろいろ化石展／シカさんの世知辛い おはなし」
- 282号<平成20(2008)年5月>:「平成19年度寄贈資料／GWから博物館で化石体験！」
- 283号<平成20(2008)年6月>:「むかわの化石(その1) むかわの化石(時代別)／大きな化石とったどー!の巻」
- 284号<平成20(2008)年7月>:「むかわの化石(その2) 最近、見つかった骨化石／もしや、ご先祖さま?!の巻」
- 285号<平成20(2008)年8月>:「むかわの化石(その3) みんなの骨と、くらべてみよう／海へ帰った動物たち(穂別のセキツイ動物化石)」
- 286号<平成20(2008)年9月>:「むかわの化石(その4) たまごをうんだのは?／雨でも元気! 化石まつり大好評」
- 287号<平成20(2008)年10月>:「むかわの化石(その5) 化石の調べ方(穂別産カニ化石)／人間もビックリ?! 虫たちの恋のかけひき」
- 288号<平成20(2008)年11月>:「むかわの石(その1) 遺跡の年代の調べ方(火山灰の利用)／白亜紀ってなに?」
- 289号<平成20(2008)年12月>:「むかわの石(その2) 石器を作った石(穂別D遺跡)／わたしはどうやって、わたしになったの?」
- 290号<平成21(2009)年1月>:「ウシとクジラの、意外な(!?)関係(牛年)／オジロワシ? -空高く舞う、大きなワシ-」

291号<平成21(2009)年2月>:「牛年なので、蝸牛(かたつむり)の話／冬の企画展 身近な自然に学ぼう」

292号<平成21(2009)年3月>:「鳥の巣? いいえ、木です(ヤドリギ)／ただいま、クリーニング中」

【宣伝活動等】

平成20(2008)年5月25日:「2008たんぼぼフェスティバル」にて、博物館宣伝ちらし・シールの配付

【新聞掲載】

【北海道新聞苫小牧圏「とまにち博物誌」】

平成20(2008)年8月1日:「海へ帰った動物たち-体形変化 出産も工夫-」(連載22回目)

平成20(2008)年11月21日:「穂別D遺跡-黒曜石以外にも石器に」(連載23回目)

【ラジオ放送】

平成20(2008)年10月31日「ラジオカロス」(特別展紹介ほか)

【広告等掲載】

【じゃらん】

平成20(2008)年5月号「じゃらん」(広告掲載)

平成20(2008)年8月号「じゃらん」(広告掲載)

普及教育活動

※利用者の区分は以下の通り

幼：小学生未満、小：小学生～高校生、大：一般

I 博物館事業（博物館の主催・共催事業）

【特別展】

※見学者数は、期間中の入館者数と会場に設置した見学者名簿に記入された穂別地区住民数の合計

夏季特別展（第27回）「海へ帰った動物たち - 穂別のセキツイ動物の秘密 -」

〈平成20(2008)年7月19日-8月31日〉：見学3,647人
（内、穂別地区30人）

秋季特別展（第28回）「穂別D遺跡=一万年前の人々の暮らし=」

〈平成20(2008)年11月1日-12月7日〉：見学695人
（内、穂別地区31人）

【マイ・ミュージアム（企画展）】

特別展示室を活用することで、町民一人一人に「自分たち町民の博物館」として親しみを持ってもらうことをめざす。町民の作品やコレクション、当館で保管する資料を展示し、お互いに見て楽しむ活動とすることが目的。

見学者数は、期間中の入館者数と会場に設置した見学者名簿に記入された穂別地区住民数の合計。

第18回「穂別のいろいろな化石」

〈平成20(2008)年4月26日-5月25日〉

穂別産の化石について、分類ごとに解説し、生き物の多様性について紹介。当館で収蔵している化石のほか、町内協力者が所有する化石も借用して展示。

見学者2,289人（内、穂別地区44人）

第19回「身近な自然に学ぼう」

〈平成21(2009)年1月24日-2月22日〉

アオサギを中心とした干潟の鳥や河口干潟について紹介。鵜川の河口干潟など、身近な自然について学ぶ。展示協力：ネイチャー研究会inむかわ
見学者128人（内、穂別地区16人）

【町民文化祭】

第52回穂別地区町民文化祭へ出展

「穂別のアンモナイト写真展」

〈平成20(2008)年10月24日（金）-26日（日）〉

見学者多数

【ホッピー化石教室】

むかわ町内の児童・生徒に、化石や博物館に親しんでもらう。化石採集（第1回・第2回）は穂別地区、化石クリーニング・レプリカ作り（第3回・第4回）は鵜川地区で実施。

第1回〈平成20(2008)年5月31日〉「化石採集1」（学習用地）：幼2・小8・大6（計16人中、穂別4・鵜川6・町外6）

第2回〈平成20(2008)年6月21日〉「化石採集2」（穂別平丘地区）：幼3・小8・大5（計16人中、穂別8・鵜川8）

第3回〈平成20(2008)年10月11日〉「化石クリーニング・レプリカ作り」（鵜川婦人研修センター）：幼2・小11・大2

第4回〈平成20(2008)年11月15日〉「化石クリーニング・レプリカ作り」（鵜川婦人研修センター）：幼2・小5・大3

【化石採集会】

主として町外の小学生以上を対象に、化石の採集を通じて穂別の化石や当館の活動について知ってもらう。参加者計33人。

第1回〈平成20(2008)年6月15日〉：幼1・小4・大6

第2回〈平成20(2008)年9月14日〉：参加22人

【化石体験】

化石クリーニング：ハンマーとタガネを使って、石の中から化石を取り出す。博物館入口横の「化石の洞窟」（屋外）で実施。10:00-15:00。

化石レプリカづくり：シリコン型に石こうを流し込み、アンモナイトのレプリカを作成する。博物館特別展示室で実施。10:00-15:00。

自由樹脂によるレプリカづくり：自由樹脂プラスチックを用いてアンモナイトのレプリカを作成する。雨天時は化石クリーニングが実施できないため、代替として特別展示室で実施した。

石割り体験：学習用地で採集されたノジュールをハンマーで割り、化石を探す体験。博物館の前庭で実施した。15:30-16:00。

〈参加者総数〉

化石クリーニング体験総数（GW・化石体験コーナー・化石まつり）：939人。

化石レプリカづくり体験総数（化石体験コーナー・化石まつり・キャンプ場レプリカづくり）：1,163人。

GWの体験コーナー

5月の大型連休（GW）に合わせて、化石クリーニング・石割り体験を実施した。平成20(2008)4月26日・27日・29日・5月3日-6日。

化石クリーニング：332人

自由樹脂によるレプリカづくり（4/27）：36人

石割り体験：342人

化石体験コーナー

5～9月の土・日に、博物館来館者を対象に体験コーナーを実施した。

化石クリーニング：毎週土曜日。平成20(2008)年5月10日～9月27日、10月25日～11月15日。449人。

自由樹脂によるレプリカづくり（雨天時に化石クリーニングの代わりに実施）：7/7。15人。

化石レプリカづくり：毎週日曜日。平成20(2008)年5月11日～9月28日、10月26日～11月16日。871人。

化石まつり

夏休み時期に、化石クリーニング、レプリカづくりほか、子ども向けの体験行事を実施した。参加者総数はのべ793人。

期間は平成20(2008)年8月1日-3日（各参加人数は3日間合計、石割りは8/1のみ実施）。

化石クリーニング：158人

レプリカづくり：165人

石割り体験：31人

ホッピー輪投げ：190人

ホッピーくじ引き：173人

博物館ウォークラリー：76人

キャンプ場でレプリカ作り

穂別キャンプ場でレプリカづくりを実施。平成20(2008)年7月26日(73人)・8月9日(54人)、計127人。

【ジオラマ・クラフトづくり】

冬休み自由研究対応。「クビナガリュウの海」のジオラマと、「クビナガリュウ、モササウルス」のクラフトづくり。

平成20(2008)年12月27日 婦人研修センター（鵜川地区）：小8・大3

【ワークシート等】

来館者を対象に、博物館展示室に各種シートを設置。参加者多数のため、数は確認せず。

博物館探検シート：クイズ形式で、展示室の化石について学ぶ（全4枚）。景品はオリジナルシール。

化石が語る絵物語：穂別の化石を紹介する、小さな塗り絵シート（2種類）。

な塗り絵シート（2種類）。

ミニジオラマ（クビナガリュウの海）：着色・切り抜いて、自分で作成するジオラマの型紙。穂別の化石が題材。

パズル「ホッピーくんとおともだち」：幼児向けパズル。

Ⅱ その他事業

【運営協力など】

[北海道洞爺湖サミット関連事業]

「むかわアドベンチャーキッズ」

平成20(2008)年6月28日：展示見学・レプリカ作り（小42・大10）

「オールいぶりサミットフェア」(洞爺湖町温泉街にて開催)

平成20(2008)年7月1日-10日：会場内「情報発信コーナー」にて、アンモナイトの展示。

平成20(2008)年7月7日：むかわ町コーナーにて、自由樹脂によるレプリカ作成体験（のべ大15）。

[地域資源活用事業]

「ムー大陸のアンモナイト探検隊」(モニターツアー)

平成20(2008)年8月7日：展示見学・化石採集・化石クリーニング・レプリカ作り（小12・大13）

[博物館協力会]

平成20(2008)年11月9日：化石クリーニング教室（幼1・小4・大1）

[アポイ岳ファンクラブ]（様似町）

平成20(2008)年8月24日：自然史講演会「むかし、竜が泳いでいた-北海道が海だったころ-」（大23）

Ⅲ 町内団体等の利用

学芸員等が対応したものは<>で内容を示した

【町内学校・教育関係団体】

平成20(2008)年5月

29日：町教研（理科・総合学習）〈展示見学・化石採集〉（大12）

平成20(2008)年6月

18日：稲里小学校全学年〈化石採集〉（小4・大3）

25日：仁和中学校3年・2年（選択理科）〈展示見学・化石採集〉（小13・大3）

平成20(2008)年7月

1日：仁和中学校3年（選択理科）〈展示見学・化石採集〉（小7・大1）

2日：鶴川高校2年〈化石クリーニング〉（小65）
：宮戸小学校3年・4年（社会科）〈展示見学・化石クリーニング・レプリカ作り〉（小12・大2）

平成20(2008)年8月

2日：富内保育所（小6・大2）

平成20(2008)年9月

4日：仁和中学校3年（選択理科）〈レプリカ作り・化石クリーニング〉（小7・大1）
：町教研（理科）〈地質見学〉（大5）

10日：仁和中学校3年（選択理科）〈展示見学〉（小7・大1）

平成20(2008)年10月

16日：生田小学校全学年〈レプリカ作り〉（小9・大4）

29日：穂別高校1年〈化石採集〉（小27・大3）

平成20(2008)年11月

11日：仁和小学校1・2年〈展示見学・化石クリーニング・レプリカ作り〉（小2・大1）

18日：稲里小学校高学年〈収蔵庫見学・中村記念館見学〉（小2・大1）

19日：穂別小学校特別教室〈展示見学・レプリカ作り〉（小6・大4）

平成20(2008)年12月

9日：富内小学校〈岩石の話・質問対応〉（小2・大1）

平成21(2009)年2月

4日：鶴川中央小学校4年（社会科見学）〈展示室・特別展・学習館収蔵庫〉（小47・大2）

【町内各種団体】

平成20(2008)年4月

11日：J Aとまこまい広域穂別支所（中国人農業実習生）〈展示見学〉（大25）

平成20(2008)年7月

17日：ピンしゃん会・笑顔友の会（鶴川・穂別交流会）〈展示見学・レプリカ作り〉（大26）

平成20(2008)年10月

1日：穂別地球体験館サイエンスガイド研修〈展示見学〉（大2）

22日：子育て支援「おひさま広場」（母子通園センター）〈展示見学〉（幼+大20）

Ⅳ 町外団体の利用

学芸員等が対応したものは<>で内容を示した

【町外学校・教育関係団体】

平成20(2008)年6月

22日：北海道長沼高等学校〈展示見学〉（小80・大4）

12日：平成20年度高等学校初任者研修「地域研修B」〈展示見学〉（大2）

平成20(2008)年7月

8日：日高小学校1年〈展示見学・レプリカ作り〉（小14・大3）

10日：厚真中央小学校5年〈展示見学・化石クリーニング〉（小28・大4）

28日：児童養護施設光が丘学園（幼9・小21・大9）

平成20(2008)年8月

10日：財団法人 千歳青少年教育財団（小45・大1）

平成20(2008)年9月

12日：生涯学習研修協会（大10）

平成20(2008)年11月

19日：富川ひばり幼稚園（年少）（小57・大4）

20日：富川ひばり幼稚園（年中）（小37・大4）

21日：富川ひばり幼稚園（年長）（小40・大4）

【町外各種団体】

平成20(2008)年5月

17日：千歳ボーイスカウト千歳第一団（小17・大7）

平成20(2008)年6月

27日：長沼寺大師婦人会<展示見学>（大26）

28日：むかわアドベンチャーキッズ（洞爺湖サミット関連事業）<展示見学・レプリカ作り>（小42・大10）

：地球にやさしいふるさとづくり推進会議（大12）

平成20(2008)年7月

3日：美深町郷土研究会<展示見学>（大19）

6日：丘珠地区子連（幼8・小78・大53）

平成20(2008)年8月

7日：「ムー大陸のアンモナイト探検隊」<展示見学・化石採集・化石クリーニング・レプリカ作り>（小12・大13）

8日：テュートレット英語クラブ<展示見学>（小81・大8）

12日：札幌市清田区子ども会<展示見学・レプリカ作り>（小47・大6）

平成20(2008)年9月

4日：株式会社グリーンプラネット<展示見学>（大3）

6日：北広島市障害児者を持つ親の会（大18）

15日：苫小牧科学センター研修<展示見学・化石クリーニング・レプリカ作り>（大4）

19日：北海道じゃらん（体験コーナー取材）<化石クリーニング・レプリカ作り>（大2）

平成20(2008)年10月

7日：北海道開発局 室蘭開発建設部 苫小牧河川事務所<展示見学>（大2）

21日：胆振森林サポーターの会（道民の森観察会）<展示見学>（大14）

23日：明喜会（大23）

30日：共和町社会福祉協議会<展示見学>（大12）

平成20(2008)年12月

4日：大夕張トンネル東JV工事事務所<展示見学>（大2）

：財務省北海道財務局 国有財産管理者ほか<展示見学>（大3）

収蔵資料概要（登録資料）

【自然史系登録資料（HMG）】 1,473点

地質・化石資料

【自然系登録資料（HMB）】 140点

現生動植物資料

【人文系登録資料（HMC）】 3,831点

民俗・歴史資料

計5,444点（2009.3.31.現在）

資料収集保存活動

I 寄 贈

（敬称略）

【自然史系資料】（55件・1,743点）

受入番号	寄贈資料	点数	寄贈者名
2008-002	化石含有ノジュール	14	笠巻 袈裟男
2008-003	化石含有ノジュール	112	堀田 良幸
2008-004	化石含有ノジュール	63	阿部利春
2008-006	化石含有ノジュール	2	千歳化石会
2008-007	化石含有ノジュール	3	千歳化石会
2008-008	アンモナイト	1	千歳化石会
2008-009	脊椎動物化石（カメ）	1	千歳化石会
2008-011	化石含有ノジュール	2	千歳化石会
2008-016	化石含有ノジュール	6	堀田 良幸
2008-017	化石含有ノジュール	8	堀田 良幸
2008-018	化石含有ノジュール	15	堀田 良幸
2008-019	化石含有ノジュール	47	堀田 直幸
2008-020	イノセラムス等	17	阿部 利春
2008-026	化石含有ノジュール	927	穂別博物館協力会
2008-027	珪化木等	6	石崎 正行
2008-029	珪化木	3	笠巻 袈裟男
2008-030	笠型巻貝 (<i>Gigantocapulus</i>)	1	菅原 昭二
2008-031	アンモナイト (<i>Pachydiscus</i>)	1	穂別博物館協力会
2008-033	化石ノジュール	1	荒木 新太郎
2008-034	巻貝化石	1	菊地 啓允
2008-035	アンモナイト顎器ほか	2	長岡 晴道
2008-038	ウミガメ化石（背甲、 肢骨）	1	大和 治生
2008-039	クジラ化石（頭骨）	1	佐藤 進
2008-040	カニ化石	1	谷川 里枝子
2008-041	魚類化石（背骨）	1	谷川 徹
2008-044	化石含有ノジュール	41	阿部 利春
2008-050	貝化石密集岩塊（第三 紀）	1	千歳化石会
2008-051	アンモナイトノジュール	3	千歳化石会
2008-054	アンモナイトノジュール	1	千歳化石会
2008-056	巻貝化石含有ノジュール	1	千歳化石会
2008-059	化石含有ノジュール	47	菅原 昭二
2008-061	アンモナイト（部分）	1	長岡 晴道
2008-069	植物化石等含有ノジ ュール	1	荒木 新太郎
2008-070	化石含有ノジュール	10	荒木 新太郎
2008-072	化石含有ノジュール	2	荒木 新太郎
2008-073	化石含有ノジュール	73	荒木 新太郎

受入番号	寄贈資料	点数	寄贈者名
2008-074	化石含有ノジュール	16	阿部 利春
2008-075	イノセラムス	1	笠巻 袈裟男
2008-077	アンモナイト	1	千歳化石会
2008-078	アンモナイト	1	千歳化石会
2008-079	脊椎動物化石	1	千歳化石会
2008-080	アンモナイト	1	千歳化石会
2008-085	化石クリーニング用タ ガネ	26	荒木 新太郎
2008-087	化石含有ノジュール	3	荒木 新太郎
2008-092	化石含有ノジュール	100	千歳化石会
2008-093	イノセラムス	1	千歳化石会
2008-095	アンモナイト	1	千歳化石会
2008-100	化石含有ノジュール	6	高橋 博志
2008-101	化石含有ノジュール	15	荒木 新太郎
2008-102	アンモナイト(大)ほか	11	堀田 良幸
2008-103	化石含有ノジュール	94	堀田 良幸
2008-104	イノセラムス含有ノジ ュール	1	鹿島・熊谷・みら い特定建設工事 共同企業体
2008-105	化石含有ノジュール	7	鹿島・熊谷・みら い特定建設工事 共同企業体
2008-106	化石含有ノジュール	36	阿部 利春
2008-111	珪化木・亀甲石・ノジ ュール	3	飯田 光春

【自然系資料】（1件・3点）

受入番号	寄贈資料	点数	寄贈者名
2008-107	現生クロミンククジラ のヒゲ板	3	財団法人 日本 鯨類研究所

【人文系資料】（0件・0点）

【その他】（0件・0点）

Ⅱ 採 集

- 【自然史系資料】(25件・196点ほか)
化石含有ノジュール、岩石標本等
【自然系資料】(4件・4点)
動物標本(シカ頭骨・脛骨・角)

Ⅲ 野外調査活動

- 【現地調査】 23回
うち、博物館協力会と合同調査：3回
千歳化石会と合同調査：6回
4月：2、16am、20、29
5月：15、16、23、28am
6月：5、13、16、18am、19am
7月：20、25
8月：21
9月：18、19、21
10月：3、4
11月：1
12月：18am

Ⅳ 新規登録資料

登録番号：資料名／受入番号／寄贈(採集)者名

- 【自然史系資料(HMG)】(化石・地質)：51点
HMG-1445：単体サンゴ／1998-129／穂別町立博物館
HMG-1446：スナモグリ／1998-079／穂別町立博物館
HMG-1447：スナモグリ／1998-077／益田和貴子
HMG-1448：スナモグリ／1998-005／高橋博志
HMG-1449：ウミユリ／2005-007／穂別町立博物館
HMG-1450：ウミユリ／1998-128／穂別町立博物館
HMG-1451：生痕化石／2006-062／穂別博物館協力会
HMG-1452：生痕化石(フナクイムシ)／2006-048
／穂別博物館協力会
HMG-1453：生痕化石(フナクイムシ)／1999-032
／上村 裕平
HMG-1454：カメ化石／1999-041／千歳化石会
HMG-1455：ノジュール／2002-012／狐塚守
HMG-1456：珪化木／2000-068／穂別町立博物館
HMG-1457：植物化石／2008-005／穂別博物館
HMG-1458：植物化石(葉)／1995-063／高橋達弥
HMG-1459：植物化石／1995-042／穂別町立博物館
HMG-1460：貝化石密集岩塊／2000-061／田中豊
HMG-1461：イノセラムス密集岩塊／1995-040／川
上源太郎・渋谷直憲

- HMG-1462：モミジソデカイ(*Aporrhais* sp.)／
1996-034／千歳化石会
HMG-1463：巻貝／1998-008／穂別町立博物館
HMG-1464：巻貝／1998-069／高橋博志
HMG-1465：二枚貝／1997-037／千歳化石会
HMG-1466：アンモナイト(*Yokoyamaoceras* sp.)／
1995-033／川上源太郎・渋谷直憲(穂別町立博物館)
HMG-1467：アンモナイト(*Polyptychoceras* sp.)／
1999-030／穂別町立博物館
HMG-1468：カメ化石／2008-009／千歳化石会
HMG-1469：石炭／2007-041／穂別博物館
HMG-1470：石炭／2007-041／穂別博物館
HMG-1471：ウミユリ／2008-013／受入記録なし
HMG-1472：珪化木／2008-021／穂別博物館
HMG-1473：ユウレイガニの仲間(*Archaeopus*
ezoensis)／2008-043／穂別博物館
HMG-1474：ウミガメ化石／2008-038／大和治生
HMG-1475：ヒゲクジラ化石／2008-039／佐藤進
HMG-1476：カメ化石／2008-042／穂別博物館
HMG-1477：アンモナイト(*Gaudryceras* sp.)／1995
-014／渋谷直憲・川上源太郎(穂別町立博物館)
HMG-1478：生痕化石(フナクイムシ)／2008-036
／穂別博物館
HMG-1479：クジラ化石／2005-033／千歳化石会(古
野竹志・服部義幸)
HMG-1480：デスモスチルス 生体復元模型(1/5)／
2008-049／足寄動物化石博物館製作
HMG-1481：ハクジラ化石／1994-001／阿部利春
HMG-1482：アンモナイト(顎器)／1997-023／笠
巻袈裟男・千歳化石会・穂別町立博物館
HMG-1483：アンモナイト(顎器)／1998-128／穂
別町立博物館
HMG-1484：アンモナイト(顎器)／1987-009／地
徳力・笠巻袈裟男
HMG-1485：アンモナイト／2008-057／下山正美(穂
別博物館)
HMG-1486：アンモナイト／2008-108／櫻井和彦(穂
別博物館)
HMG-1487：オルソセラス(*Orthoceras* sp.)／
2008-109／櫻井和彦(穂別博物館)
HMG-1488：長頸竜化石(レプリカ)／1984-001／
国府田良樹
HMG-1489：チャート(岩石)／2000-049／穂別町
立博物館
HMG-1490：蛇紋岩(岩石)／2000-049／穂別町立
博物館

HMG-1491 : 緑色片岩 (岩石) / 2000-049 / 穂別町立博物館
 HMG-1492 : 化石含有砂岩 (岩石) / 2001-031 / 穂別町立博物館
 HMG-1493 : クロム鉄鉱 (岩石) / 1991-012 / 加藤敏廣
 HMG-1494 : 石灰岩 (岩石) / 2007-040 / 穂別博物館
 HMG-1495 : 堆積性蛇紋岩礫岩 (岩石) / 2007-044 / 穂別博物館

【自然系資料 (HMB)】 (現生生物) : 17点
 HMB-125 : 単体サンゴ (クサビライシ科) / 1993-018 / 小林一秀
 HMB-126 : 単体サンゴ (クサビライシ科) / 1984-028 / 藤田守
 HMB-127 : 群体サンゴ (キクメイシ科) / 1984-028 / 藤田守
 HMB-128 : 群体サンゴ (キクメイシ科) / 1984-028 / 藤田守
 HMB-129 : 群体サンゴ (イシサンゴ類) / 1996-045 / 佐々木尚子
 HMB-130 : ウニ (ハスノハカシパン *Scaphechinus mirabilis*) / 1996-038 / 穂別町立博物館
 HMB-131 : 群体サンゴ (イシサンゴ類) / 1996-045 / 佐々木尚子
 HMB-132 : ウニ / 2008-014 / 櫻井和彦 (穂別博物館)
 HMB-133 : ヒトデ / 2008-014 / 櫻井和彦 (穂別博物館)
 HMB-134 : ニホンイタチ (*Mustela itatsi*) / 2008-045 / 受入記録なし
 HMB-135 : エゾシカ (*Cervus nippon yezoensis* オス) / 2006-022 / 菅原昭二
 HMB-136 : カピパラ (*Hydrochoerus hydrochaeris* 頭骨レプリカ) / 2008-046 / 沼田町化石館製作
 HMB-137 : エゾユキウサギ (*Lepus timidus ainu* 頭骨レプリカ) / 2008-046 / 沼田町化石館製作
 HMB-138 : ホッキョクグマ (*Ursus maritimus* 頭骨レプリカ) / 2008-046 / 沼田町化石館製作
 HMB-139 : オサガメ (*Dermochelys coriacea*) / 2008-047 / 受入記録なし
 HMB-140 : ミンククジラ ヒゲ板 / 2008-048 / (北海道開拓記念館 2007年度特別展「鯨」来場者記念品)
 HMB-141 : 現生イカ (顎器) / 2008-110 / 櫻井和彦 (穂別博物館)

【人文系資料 (HMC)】 (生活・歴史等) : 0点

V 資料の貸出

平成6(1994)年8月17日-平成21(2009)年3月31日
 ウミガメ化石 (HMG-366, 367, 1053, 1054, 1055 : 5点) : 早稲田大学 平山廉博士 (旧所属 : 帝京平成大学)
 平成7(1995)年4月1日-平成21(2009)年3月31日
 アンモナイト (HMG-842) ・ イノセラムス (HMG-883) (2点) : 穂別地球体験館
 平成7(1995)年5月11日-平成21(2009)年3月31日
 ウミガメ化石 (HMG-1063, 1064 : 2点) : 早稲田大学 平山廉博士 (旧所属 : 帝京平成大学)
 平成7(1995)年4月1日-平成21(2009)年3月31日
 剥製標本 (HMB-2, 3, 4, 7, 9, 11, 12, 17, 19, 21, 22, 25, 26, 29, 30, 40, 41, 43, 98, 99 : 計20点) : 穂別町立穂別小学校
 平成8(1996)年6月14日-平成21(2009)年3月31日
 剥製標本 (HMB-36, 47 : 2点), ジオラマ (HMC-2797, 2798, 2799, 2821 : 4点) : 穂別町立穂別小学校
 平成9(1997)年6月27日-平成21(2009)年3月31日
 アンモナイト (HMG-911, 936 : 2点) : 工業技術院地質調査所地質標本館 利光誠一博士
 平成20(2008)年7月3日-8月31日
 ホベツアラキリュウ (HMG-1レプリカ : 3点)、モササウルス (HMG-12レプリカ)、メソダーモケリス (HMG-365 : 2点)、アノマロケリス (HMG-1056レプリカ)、ウミガメ卵化石 (HMG-1072レプリカ) <計8点> : 滝川美術自然史館
 平成20(2008)年7月14日
 穂別町古写真 : TBSテレビ
 平成20(2008)年7月15日-8月30日
 アノマロケリス (HMG-1056レプリカ) (1点) : 久慈琥珀博物館
 平成20(2008)年12月11日-平成21(2009)年3月27日
 ホベツアラキリュウ (HMG-1レプリカ : 2点)、モササウルス (HMG-12ほかレプリカ : 3点)、アノマロケリス (HMG-1056レプリカ)、アンモナイトほか (21点) <計27点>、ホベツアラキリュウ発掘調査写真 : 新ひだか町静内郷土館

調査研究活動ほか

I 調査研究活動

【脊椎動物化石】

櫻井和彦：「穂別博物館の所蔵する新生代哺乳類化石」（研究報告第24号、下記）

II 刊行物

【むかわ町立穂別博物館研究報告】

第24号、41頁：平成21(2009)年3月31日発行
＜掲載論文＞

本山功・川村好毅：北海道穂別地域の中新統の地質と放散虫化石層序. p. 1-18.

櫻井和彦：穂別博物館の所蔵する新生代哺乳類化石. p. 19-41.

【むかわ町立穂別博物館館報】

第25号、(平成19<2007>年度版)16p. :
平成21(2009)年1月発行

III 学会・大会・研修会等への参加

【学会・研修会等】

なし

【博物館協会等の大会・研修会等】

[北海道博物館協会]

第47回北海道博物館大会(伊達市)

平成20年7月24日：学芸員出席

学芸職員部会 総会・研修会：欠席

ミュージアムマネジメント研修会：欠席

[日胆地区博物館等連絡協議会]

総会(苫小牧市)

平成20(2008)年6月11日-12日：学芸員出席

職員研修会(日高町)

平成20(2008)年11月6日-7日：学芸員出席

事例紹介「穂別博物館の取り組み -穂別の山と鶴川の海・観光資源と博物館-」

館長会議・拡大役員会(苫小牧市)

平成21(2009)年2月24日：学芸員出席(理事)

IV 協力団体との連携

【穂別博物館協力会】

平成20(2008)年

5月9日：穂別博物館協力会総会

5月14日：学習用地整備下見(荒木、高橋、河崎、滝川、山田 各会員)

5月17日：学習用地整備(荒木、滝川 各会員)

5月18日：学習用地整備(荒木、滝川、山田、高橋 各会員)

5月27日：学習用地水洗(荒木、高橋、山田 各会員)

6月18日：野外調査(荒木会員)

9月18日：野外調査(荒木会員ほか)

10月3日：野外調査(荒木会員)

11月9日：化石クリーニング教室(荒木、高橋、山田 各会員)(参加者 小6・大3)

平成20年度寄贈資料：

化石ノジュール(10件・1,039点)

クリーニング用タガネ(26点)

【千歳化石会】

平成20(2008)年

4月20日：野外調査

4月29日：野外調査

7月20日：野外調査

9月21日：野外調査

10月4日：野外調査

11月1日：野外調査

11月23日：総会

平成20年度寄贈資料：

化石ノジュール(16件・121点)

運 営

I 行事等

【中央生活館の展示】

収蔵している民俗資料の展示

【地域資源活用事業 検討会】

むかわ町と穂別観光協会が主催。平成19年度に実施された、地域資源活用事業の体験型商品開発に関する現地相談会の内容を踏まえ、穂別地区の化石を題材とした有料の体験メニュー（モニターツアー）を実施した。

平成20(2008)年8月7日：「ムー大陸のアンモナイト探検隊」〈展示見学・化石採集・化石クリーニング・レプリカ作り〉（小12・大13）

【洞爺湖サミット関連事業】

むかわ町と胆振支庁が主催。平成20年7月7日-9日にかけて北海道洞爺湖町にて開催された「北海道洞爺湖サミット」に関連した実施事業への協力。

「むかわアドベンチャーキッズ」

「地球にやさしいふるさとづくり推進会議」が主催。町内および近隣の児童・生徒を対象に、自然探検や植樹活動を通して、自らが環境を考える心を養うことを目指す事業。

平成20(2008)年6月28日〈展示見学・レプリカ作り〉（小42・大10）

「オールいぶりサミットフェア」

胆振支庁が毎年実施している「オールいぶりフェア」が、本年度は「北海道洞爺湖サミット」に合わせて実施された。洞爺湖町温泉街における胆振管内市町村の宣伝コーナーに参加した。

平成20(2008)年7月1日～10日：会場の「情報発信コーナー」にて、穂別産アンモナイトの展示。

平成20(2008)年7月7日：むかわ町コーナーにて、自由樹脂によるレプリカ作成体験（大15）。

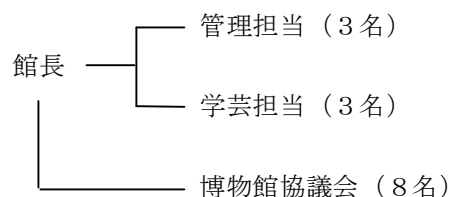
【研修の受入れ】

平成20(2008)年：

9月2日-3日：穂別中学校2年職業体験（2名）

9月10日-11日：穂別高校2年インターンシップ（2名）

II 組 織



【博物館協議会委員】〈平成20(2008)年度〉

平成20(2008)年8月1日-平成21(2009)年3月31日

会 長	梅 津 讓 一
副会長	佐 藤 稔
委 員	内 海 由紀江
委 員	鎌 田 政 博
委 員	菊 地 啓 允
委 員	小石川 武 美
委 員	高 橋 義 道
委 員	只 野 繁

【博物館職員】〈平成20(2008)年度〉

〈館 長〉	柏 恵 一
〈管理担当職員〉	
臨時職員（事務補助）	中 島 美 香
臨時職員（受付）	芥 川 紀 子
臨時職員（清掃）	多 村 こゆる
〈学芸担当職員〉	
学 芸 員	櫻 井 和 彦
普 及 員	打 本 香 織
	（平成20年11月30日まで）
臨時職員（学芸補助員）	下 山 正 美

Ⅲ 利用状況

【常設展示観覧者】

平成20(2008)年4月～平成21(2009)年3月

月	一般	学生	計	開館日
4	433	178	611	26
5	1,407	684	2,091	26
6	390	271	661	25
7	776	458	1,234	31
8	1,735	1,141	2,876	31
9	502	188	690	23
10	569	154	723	26
11	457	183	640	24
12	40	11	51	24
1	38	15	53	22
2	39	62	101	23
3	183	55	238	26
計	6,569	3,400	9,969	307

(単位：人・日)

【博物館特定入館日】

<博物館開館記念日関連事業>

7月20日の開館記念日に関連して、平成20(2008)年7月20日(月)～7月26日(日)の7日間を町民無料入館の日とした。

<国際博物館の日>

国際博物館会議(イコム、ICOM)のモスクワ大会(1977年)にて制定され、日本では平成14年度から日本博物館協会とイコム日本委員会が協力して記念事業が展開されることとなった「国際博物館の日」(5月18日)の趣旨に賛同し、当日を町民無料入館の日とした。

[博物館特定入館日に伴う町民無料入館]

一般：高校生より上、学生：小学生～高校生

実施日	行事名	一般	学生	計
08.5.18	国際博物館の日	6	1	7
7.20～26	博物館開館記念日	23	29	52
9.15	敬老の日	8	1	9
11.3	文化の日	8	6	14
11.23	勤労感謝の日	6	3	9
09.1.12	成人の日	4	1	5
計	計12日	55	41	96

(単位：人)

【学校週五日制関連事業】

<町内児童生徒に対する入館料減免>

学校完全週五日制及び「総合学習」の導入に合わせ、むかわ町内児童生徒並びに引率者については無料観覧とした。

平成20年度の利用者数：671人(個人見学のみ)

Ⅳ 歳入

区分	有料入館者数	使用料
一般	個人	4,379
	団体	289
	割引	1,901
学生	個人	2,084
	団体	534
	割引	782
小計	9,969	1,894
諸収入	物品販売代	5
	私用電話料	1
	体験学習料	5
小計		11
合計		1,905

(単位：人・千円)

Ⅴ 歳出

費目	金額
報酬	1,243
共催費	454
賃金	3,381
報償費	100
旅費	31
需用費	4,801
役務費	384
委託料	1,738
使用料及び賃借料	494
原材料費	84
負担金補助及び交付金	36
備品購入費	61
博物館費合計	12,807

(単位：千円)

VI 利用案内

【開館時間】

午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

【休館日】

- ・毎週月曜日。
 - ・国民の祝日の翌日。ただし、その翌日が土曜日および日曜日に当たるときは月曜日とし、月曜日が国民の祝日又はその翌日に当たるときは火曜日及び水曜日とする。
 - ・12月31日-1月5日。
- *ただし、7、8月は休館日なし。

【観覧料】

	一般	学生
個人	300円	100円
団体	200円	50円
割引	100円	無料

一般：高校生より上

学生：小学生・中学生・高校生

幼児（未就学児童）は無料（要大人の付添い）

団体：10人以上

割引：穂別地球体験館（体験館）との共通利用割引（両施設を見学する場合の割引制度。体験館に先に入館した場合、この料金が適用される。当館を先に入館した場合は通常料金で、体験館の入館料が割引される。）

【減免】

「（むかわ町立）博物館の展示場に入場しようとする者は、観覧料を納付しなければならない（むかわ町立博物館設置条例、第4条）」が「（むかわ町）教育委員会は、特別の理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる（同条例、第5号）」。減免は、教育・研究・福祉を目的とし、以下に従う。

むかわ町立博物館施行規則第4条の規定による観覧料の減免は、次のとおりとする。

（教育目的）

1) むかわ町内の小・中学校及び高等学校の児童生徒と引率者が教育を目的として入館する場合。

（研究目的）

2) 国・地方公共団体及び学術研究機関の職員が調査・研究のため入館する場合。

（福祉目的）

3) 老人福祉法（昭和38年法律第133号）第15条に規定する町内の老人福祉施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合。

4) 知的障害者福祉法（昭和35年法律第37号）第19条に規定する町内の知的障害者援護施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合。

（公益目的）

5) 前各号に定めるもののほか、公益上または教育振興上特に館長が必要と認める場合。

むかわ町立穂別博物館館報

第26号

平成20（2008）年度版

発行 2010年3月

発行者 むかわ町立穂別博物館

〒054-0211

北海道勇払郡むかわ町穂別80番地の6

TEL/FAX (0145) 45-3141